

で推移していくものと考えられる。但し手術内容については、今後ますます高度化が予想され、私達看護スタッフも日々研鑽を積んでいかなければと思っています。

今後とも関係方々にはさらなる手術室の発展、運営のために尚一層のご支援をお願い致します。

総手術件数 2475 件 麻酔症例 1026 件

定期手術 1764 件 (71%)

臨時手術 565 件 (23%)

呼び出し手術 146 件 (5.9%)

延長手術 424 件 (17%)

科別手術件数

外科 286 件 泌尿器科 292 件

胸部外科 236 件 耳鼻科 233 件

脳外科 154 件 眼科 308 件

整形外科 560 件 麻酔科 1 件

外 来 の 1 年

外来婦長 岩 井 照 代

最初に増築で始まり改築と、平成4年のような忙しい1年でした。透析室の増築により9ベッドを25ベッドに、物品の購入は経理に大変お世話になりました。スタッフの育成は外来スタッフ、看護部長の協力を得ることが出来て事前の研修をする事が出来、4月の移転時より、透析治療を待っている患者さんや、地方まで透析治療を受けに行っていた患者さんを受け入れることが出来ました。私は外来のスタッフと研修を受けてくれた透析室のスタッフの皆様にお礼を言います。その後改築では外来患者さん、外来スタッフに大変迷惑をおかけしました。週単位に変化する外来の配置で迷う患者さんが多く、スタッフは案内に気持ちよく対応してくれた。やっと11月で終了し小児科外来で廊下で点滴治療を受けていた患者さんに点滴室とベットを提供することが出来ました。ベット利用率が高く入院ベットの空きが無い事と、ターミナルなどで外来で点滴治療を受ける患者さんも多く各外来が狭いことで点滴治療を受ける患者さんのベットを提供することも出来ました。内科外来

も広くなり、循環器呼吸器内科と消化器内科を分けることが出来、雑多になりやすい内科外来を整えることが出来ました。

去年の目標のもう1つである接遇も患者さんから良い評価をいただくことが多くなり外来の月目標を起てながら努力してくれています忙しい中で自分の気持ちをコントロールする事は大変難しいことですが、みんなで声を掛け合いながらいつもの努力をしていきたいと思います。

病院機能評価で外来も変化する事が出来ました。各外来の整理整頓、病歴室の整理整頓、継続看護の退院時サマリーが出来たことにより外来での継続看護の取り組みも開始しました。委員会を作り両主任をリーダーにまずは1人からを合い言葉に活発に、着実に動き始めています。これが定着して患者さんのためにもスタッフの看護の充実感を得るためにも有効となるように進めたいと思います。

救急外来の患者数も年々増加し、患者さんのニーズが多くなって来ています。

救急外来利用状況

H 6 年	H 7 年	H 8 年	H 9 年	H 10 年	H 11 年
7110	8381	8635	8380	8775	10018

救急外来日直帯利用状況

	脳神経外科	内科	外科	整形外科	耳鼻科	精神神経科	眼科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	小児科	合計
H 9 年	182	800	241	518	148	52	145	229	323	86	1109	3833
H10年	189	877	205	437	186	63	127	210	351	109	1249	4003
H11年	198	1159	190	554	215	76	145	270	317	96	1383	4603

救急外来当直帯利用状況

	脳神経外科	内科	外科	整形外科	耳鼻科	精神神経科	眼科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	小児科	合計
H 9 年	339	1189	192	466	208	101	141	372	268	100	1171	4547
H10年	290	1265	155	490	235	133	118	438	295	79	1269	4767
H11年	384	1501	132	563	237	152	147	424	387	143	1345	5415

救急車搬入数当直帯状況

	脳神経外科	内科	外科	整形外科	耳鼻科	精神神経科	眼科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	小児科	合計
H 9 年	131	178	36	73	17	26	2	4	1	10	11	488
H10年	127	185	29	83	18	36	1	15	3	15	15	527
H11年	146	218	21	92	16	28	2	7	8	15	20	573

年間救急車搬入数

	脳神経外科	内科	外科	整形外科	耳鼻科	精神神経科	眼科	産婦人科	皮膚科	泌尿器科	小児科	合計
H 9 年	267	328	66	216	24	37	3	8	3	15	21	988
H10年	269	338	52	199	32	49	1	19	9	25	24	1017
H11年	309	434	56	244	26	50	4	12	19	27	35	1216

救急外来も患者数、内容とも多種多様となっており研修等の必要性和各科医師の協力を得、書類手続きの簡素化が必要と考えます、また夜間の様子観察が必要とされる患者さんが多くなってきているため、バックアップベッドの必要性があるのではないかと考えます。

私は外来勤務を命じられて8年が経ちました。外来の事は何も知らない私に外来スタッフのみな

さんはとても暖かく迎えてくれ、協力をしてくれました。少しでもお返しがしたいと努力する毎日ですが、良い主任とスタッフに恵まれたことに感謝しています。それに甘えることなく、まだまだ未熟な私ですが良い看護を患者さんに提供してくれるスタッフに感謝する気持ちを忘れることなく、患者さんから信頼される外来を目標に努力していきたいと思ひます。